

科目名	ネットワークセキュリティⅡ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	古賀 正恭		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 2年						
授業概要	セキュリティの現状、セキュリティ対策としての電子署名、認証局の重要性と仕組み、情報セキュリティ関連の制度や法規等の基本知識を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				セキュリティの概要(現状、基礎技術)を説明できる。	
	○	○				各種攻撃手法を理解し、基本的な対策について説明できる。	
	○	○				OS(Windows)の持つ基本的なセキュリティ機能について説明することができる。	
	○	○				ネットワークの基本的なセキュリティ(ファイアウォールなど)について説明することができる。	
○	○				クライアントとサーバの基本的なセキュリティについて説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・MTAセキュリティの基礎 (Microsoft) ・MTA Security問題集 (インプレス) 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~4	1章 セキュリティ概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5~10	2章 攻撃手法の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11~14	3章 OSのセキュリティ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15~18	4章 ネットワークのセキュリティ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19~20	5章 クライアントとサーバのセキュリティ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21~22	6章 アプリケーションのセキュリティ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	SOCの仕事について					
	24~27	MTA セキュリティの基礎 受験対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	28	MTA セキュリティの基礎 受験			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを数回実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※MTA試験 セキュリティの基礎(98-367)に合格した場合、上記の評価を踏まえてC以上とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				20%
	出席状況・態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	システム設計Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	古賀 正恭		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	情報工学科 2年						
授業概要	Web開発をテーマにシステムの要件を提示する。 要件を満たすシステムの仕組みを検討し、基本仕様書、機能仕様書、詳細仕様書等について学ぶ。 設計書を作成する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					各種設計書の意義と相互の関連について説明することができる。	
		○				プロジェクトに応じ作成すべき設計書を選定することができる。	
		○				各種設計書を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・はじめての設計をやり抜くための本 概念モデリングからアプリケーション、データベース、アーキテクチャの設計まで(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~2	第1章 はじめて設計をやり抜くために			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3~4	第2章 設計の目的			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5~10	第3章 外部設計の手法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11~16	第4章 内部設計の手法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17~22	第5章 アーキテクチャの目的			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23~26	第6章 アーキテクチャ設計のアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27~28	第7章 本当に設計は必要か			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				40%
	課題・レポート	○	◎				40%
	出席状況・態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	情報処理試験春期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	志水、久家、今村、村上、古賀、相原、 晶添、藤澤、木村、打越、久保山、姫 野、西野、山下		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	プログラミング演習ⅡA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	古賀 正恭		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	情報工学科 2年						
授業概要	1年過程で学んだJava言語の基礎知識を実際の開発で活かすために、実際の開発時に使用される実践的な知識を学び活用できるようになる。 SDK8以降にJavaに追加された開発技術や技法を理解し、ラムダ式・ストリームなどモダン記法に基づいたソースコードを読解・記述できることを目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Java言語の最新技法(ラムダ式や関数オブジェクト、ストリームなど)とその考え方を説明できる。	
		○				Java言語の最新技法を利用したソースコードが解読できる。	
		○				Kotlinなど他言語に通じるモダンなオブジェクト指向プログラミングの考え方を理解し応用することができる	
テキスト・教材 参考図書	・スッキリわかるJava入門実践編 第2版 (インプレス)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~2	Java基礎の復習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3~4	文字列の操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5~6	日付と時間の取り扱い			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7~8	コレクション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9~12	インスタンスの基本操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13~16	さまざまな種類のクラス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17~22	ラムダ式と関数オブジェクト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23~24	JVM制御とリフレクション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25~26	非標準ライブラリの活用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27~28	まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				40%
	課題・レポート	○	◎				40%
	出席状況・態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	UIデザイン演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	情報工学科2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン基礎から学び、その概念をツールで実践する形で実施する。 ・最終課題にて使いやすいUIを意識した作品を作成する ・UIに利用されるJavaScriptの基本文法を習得する 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				デザインツールの種類と基本操作を習得する	
		○				JavaScriptの役割について学び、基礎文法を習得する	
テキスト・教材 参考図書	やさしいデザインの教科書(株式会社インプレスジャパン) 知識ゼロからはじめる ゆっくり・ていねいJavaScript ES6対応(ソシム)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	■Chapter1 デザインとは					
	2	Gimpのインストール・画像編集の練習					
	3	■Chapter2 レイアウトの法則					
	4	課題: 甲子園非公式サイト夏のイメージしたトップ画像を作成する					
	5	Inkscapeのインストール・文字編集の練習					
	6	■Chapter3 文字の法則					
	7	課題: 甲子園非公式サイトのロゴを作成する					
	8	■Chapter4 カラーの法則					
	9	課題: 甲子園非公式サイトのトップページを作成する					
	10	■Chapter5 デザインの手法、codepenのユーザー登録					
	11	JavaScriptの書き方			codepenのユーザー登録しておくこと		
	12	HTML、CSSと連携したJavaScriptの使い方					
	13	HTML、CSSと連携したJavaScriptの使い方					
	14	HTML、CSSと連携したJavaScriptの使い方					
15							
評価方法	(1)作品提出期限・過程を評価する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物提出状況		◎				40%
	課題・レポート		○		◎		40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	Webアプリケーション開発演習A					
科目名(英)						
単位数	7単位	時間数	112時間	担当者	藤澤 昌聡	
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	情報工学科 2年					
授業概要	教科書ベースで講義、演習を行い、PHPを活用したWebアプリケーション開発の基礎の修得を目指す。教科書のサンプルプログラムを実際に実装し、動作確認しながらPHPの理解を深める。また、適宜追加の演習問題を実施して、知識の定着を図る。					
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				Webアプリケーション開発環境を構築することができる
		○				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる
		○				PDOクラスを利用してデータベースを操作することができる
		○				セッションを利用したWebアプリケーションを作成できる
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくPHP「超」入門(SBクリエイティブ)					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1~4	Chapter1-2 イン트로ダクション、環境構築と動作確認				
	5~8	Chapter3 最初のPHPプログラミング(1)				環境構築未完了の場合、完了させておくこと
	9~12	Chapter3 最初のPHPプログラミング(2)				
	13~16	Chapter4 制御構造とコントロール(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	17~20	Chapter4 制御構造とコントロール(2)				
	21~24	Chapter5 関数を使いこなす(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	25~30	Chapter5 関数を使いこなす(2)				
	31~34	Chapter6 データベースの基本と操作(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	35~38	Chapter6 データベースの基本と操作(2)				
	39~42	Chapter7 実用的なスクリプト(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	43~46	Chapter7 実用的なスクリプト(2)				
	47~50	Chapter8 Webアプリケーションとして公開する				
	51~54	総合演習				
55~58	総合演習					
評価方法	(1)各章での演習課題提出(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験		◎			
	課題提出		◎		○	
	授業態度				◎	
						評価割合
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。					

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	古賀 正恭		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科2年						
授業概要	社会人としてのマナー教育およびビジネスマナー教育は、麻生塾教育方針に掲げられた「人間性、人格の成長」の基本である。一人ひとりの学生が、一度の人生を無駄にせず価値あるものにするために、自分の人生を豊かにしていくうえで「志を立てる」ことが大切となる。志が立てば、働く意味や学ぶ意味も自分でしっかりと考えるようになり、就職動機やキャリアビジョンを思いがこもった自分の言葉で表現できるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
						麻生グループにおける「グローバルシティズン育成」の期待される次の3つの能力を持つことができる	
	○			○		1. 歴史の理解とグローバル化を見据えた広い視野・知識と深い洞察力	
				○		2. 未来からの反射を踏まえた自分像に向けて、自己を革新する成長力	
				○		3. 与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力	
テキスト・教材 参考図書	・グローバルシティズンベーシックII 志の教育						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるか～			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	なぜ志を立てることが大切なのか ～世界の中の日本・日本の中の私①～			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	自己を知る ～私の過去・現在・未来～			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	伝える力を学ぶ(1) ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	伝える力を学ぶ(2)「グループコミュニケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる(言葉の力とプロ意識に学ぶ)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	自己の大切さと責任を自覚する ～世界の中の日本・日本の中の私②～			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)課題・レポートを適宜実施する。(2)出席回数进行评估し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート		◎		○		80%
	出席状況・態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	一般教養 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科2年						
授業概要	就職試験における作文に関して、簡潔で分かりやすい文章が書けるようになる。 麻生塾の「作文教室」についても、授業の一環として、テーマにそったシナリオ作成 & 作文作成を行い、サポートします。 (2コマ) (提出は担任の先生 → 添削は「作文教室」の先生 → 返却は非常勤講師) 授業では、2回程度「シナリオ作成 ⇒ 作文作成」を実施します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					作文(構成⇒作成)の学習で、相手にわかりやすく理解できる作文を書くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強の作文・小論文(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	テキスト内容確認、作文作成に関する解説プリント(3枚) 原稿用紙に文章(文字)を書く練習。(30分 600字)・・・テキストより。					
	2	漢字のミニテスト(5分間)・・・1回目、原稿用紙の使い方説明 作文のシナリオ作成(3段落) ⇒ シナリオ用紙に記入・先生がチェック。					
	3	漢字のミニテスト(5分間)・・・2回目作文作成(800字程度) 漢字の練習(15分間)・・・3回目					
	4	漢字のミニテスト(5分間)・・・3回目作文作成(800字程度) つづき漢字の練習(15分間)・・・4回目					
	5	漢字のミニテスト(5分間)・・・4回目テキスト内容確認、作文返却(各人に個別返却・アドバイス)漢字の練習(15分間)・・・5回目					
	6	漢字のミニテスト(5分間)・・・5回目テキスト内容確認。作文返却(各人に個別返却・アドバイス)漢字の練習(15分間)・・・6回目					
	7	小 テ ス ト					
	8	漢字のミニテスト(5分間)・・・7回目作文教室対策(テーマにそったシナリオづくり)テキスト内容確認、漢字の練習(15分間)・・・8回目					
	9	漢字のミニテスト(5分間)・・・8回目作文教室対策(テーマにそったシナリオづくり & 作文作成)漢字の練習(15分間)・・・9回目					
	10	漢字のミニテスト(5分間)・・・9回目 作文のシナリオ作成(3段落) ⇒ シナリオ用紙に記入・先生がチェック。					
	11	漢字のミニテスト(5分間)・・・10回目作文作成(800字程度)					
	12	作文作成(800字程度) つづき 1作文返却(各人に個別返却・アドバイス)					
	13	作文作成(800字程度) つづき 2作文返却(各人に個別返却・アドバイス)					
	14	定期試験対策					
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを1回実施する。(3)出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				40%
	小テスト		◎				40%
	授業態度など				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ビジネスソフトウェア演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	河野 明子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科2年						
授業概要	Wordを使用して、ビジネス文書や表現力をアップする機能を使った文書(チラシ等)が作成できる PowerPointを使用して、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			Wordを使って、30分以内でビジネス文書(社外文書)を作成できる	
			○			PowerPointを使って、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる	
				○		宿題に取り組み、積極的に授業に参加できる	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016(FOM出版) 表計算問題がちゃんと解ける本						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 Wordの基礎知識/第2章 文書の新規作成(Word)①					
	2	第2章 文書の新規作成(Word)②					
	3	第3章 グラフィック機能の利用					
	4	第4章 表の作成(Word)/第13章 アプリ間でデータの共有(WordとExcel)					
	5	補足 長文の作成					
	6	Word 練習問題(総復習)				テキストの第1章～第4章を復習しておくこと。	
	7	実技試験(Word)/第10章 PowerPointの基礎知識				6回の練習問題を復習しておくこと。	
	8	第11章 プレゼンテーションの新規作成					
	9	第12章 スライドショーの実行					
	10	第13章 アプリ間でデータの共有(WordとPowerPoint)					
	11	PowerPoint 練習問題(総復習)				テキストの第11章～第13章を復習しておくこと。	
	12	実技試験(PowerPoint)				11回の練習問題を復習しておくこと。	
	13	テーマを決めて、情報収集、プレゼンテーション作成/Wordでストーリーシート作成				テーマを考えておくこと。	
	14	PowerPointでプレゼンテーションの資料作成					
15							
評価方法	(1)定期試験(実技)を実施する。(2)授業の中で小テストを3回実施する。(3)宿題を数回実施する。 (4)授業態度の注意が多い学生に対し減点評価を行う。(5)出席回数を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験			◎			50%
	小テスト			◎			20%
	宿題・レポート			◎	○		10%
	授業態度				◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	宿題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または追加宿題を設ける場合がある。出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						